

中田かわら版 6 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

「発明クラブがやってくる」

40 周年の横浜中田少年少女発明クラブ

“発明クラブがやってくる”という名の講座があると聞いて、面白そうだと取材をした。場所は中田コミュニティハウス、講師は尾関良雄さんと豊田浩康さん。この方々は中田寺前にあった「中田住民の家」で永年にわたり「横浜中田少年少女発明クラブ」で指導員をつとめてこられた。学校とは少し違う自由な発想で科学的見方や考え方のできる子どもたちを育てたいとの方針を貫いてきた熱い思いを持った方々で、この日は臨時の講座にも関わらず猛烈な熱気に包まれ、取材を忘れて入り込んでしまった。その一端をご紹介します。

この日集まったのは小学 3 年から 6 年生 15 人。尾関指導員の合図にどんな話が始まるか、子どもたちが中央のテーブルを取り囲み、興味目を一杯見開いていた。「今日は初めてですから」と、あらかじめ用意されていた教材は「自由にいじりまわしてよい」の方針のもと木片、割りばし、紙、段ボール紙そしてのり、クリップ類などの工具を使わないで接続や組み立てができて、回したり走らせたりが出来る工夫が身につくように考えられている。「この教材をどう使って何ができるか、なぜできないか考えて工夫しなさい」というかなり高尚なもので、指導員のヒントを聞いて素直にやる子やそれ以上を工夫する子、組み立てたり壊したり考え込んだり…。

もともと好きで集まってきた子たちだけに皆真剣に活発に時間を過ごし、2 時間は瞬く間に過ぎた。



横浜中田少年少女発明クラブは 2022 年で 40 周年を迎え、記念誌も発行されている。設立は 1982 (昭和 57) 年、全国で 34 番目のクラブ。神奈川県初、今でも横浜市では唯一ここ中田だけ。現在は白百合パークハイムで毎月 2 回、日曜日に開かれている。募集は 20 人、すぐ一杯になり 2023 年度分はすでに締め切られている。尾関指導員に「あなたの情熱の元は何ですか」と尋ねた。「京浜工業地帯という日本の基幹産業の集まる中でモノづくりに従事してきたが、重工業から電子分野に移っていく中で環境負荷の問題など世界が変わっていく。ここで大切なのは人づくりだ、人づくりからやろうと発明クラブに関わった」。また豊田指導員は「子どもたちがここで活動する期間は短いがその経験を生かして地域や日本の役に立って欲しいと願ってボランティアを続けている」。講座の冒頭の説明の中で小型のソーラーパネルを示し「これは発電している、捨てても発電している。感電するかもしれない。裏面はハンダがいっぱいついている。ハンダは鉛が使われているので環境に良くないね」と、勝手な廃棄が身近に与える影響などに触れて、大人にも有意義な空間が形成されていた。

クラブの卒業生が指導員、準指導員として活躍している。一期生は 50 歳になろうか、社会の重責を担う存在かも知れない。

(河内満明)

中田中、創立 50 周年 キャラクター決まる

～10 月には記念祝賀会など、多彩な取り組み



1973（昭和 48）年に開校した中田中学校（赤堀貴校長）は今年、創立 50 周年を迎えた。10 月には記念祝賀会が開かれるほか、記念の文化発表会を横浜みなとみらいホールで開催するなど多彩な 50 周年事業を繰り広げる予定。スローガンを「みんなで祝おう 中田中学校～半世紀分のありがとう～」に決定し、校門の横に横断幕を掲げたほか、生徒たちで選考しキャラクターもつくった。最終選考に残ったファイナリスト 3 人の作品から、生徒の投票で選ばれたキャラクターは、中川路実玖（みく）さん（3 年）＝写真④＝がデザインした。かわいらしく表情豊かなペンギンに込めた思いを、中川路さんに聞いた。（鈴木賀津彦）

生徒投票で中川路さんのデザインに

— なぜこのデザインにしたのですか？

中田中学校らしいキャラクターにするために、学校の校章に描かれているペンをモチーフにしたいと思い、ペンとペンギンをかけて、かわいらしくなるように工夫しました。

— みんなに見てほしいポイントはどこですか？

くちばしや羽にある万年筆の模様です。校章にもある 3 つのペン先を表しています。体の色もポイントで、学校のジャージの色にしました。ジャージの青色、黄色、緑色を入れることによって、より中田中学校らしさが感じられると思います。（※本紙はモノクロ印刷で色は分かりませんが、web の紙面でカラーのデザインをご覧ください）

— 苦労した点がありますか？

いろいろな人に親んでもらうため、みんなが描きやすいようにシンプルにしたところ です。

最初に案をいくつか出した時はリアルなペンギンのようなので、誰でも描けるようなものではなかったのですが、友人や家族にアドバイスをたくさんもらい、今のようなかわいらしいキャラクターになりました。

— 50 周年キャラクターに選ばれたときはどんな気持ちでしたか？

自分のつくったものが、まさか選ばれるとは思ってなかったので、とても嬉しかったです。50 周年という大きなイベントの年に、私のデザインが選ばれて、中学校生活最後の大きな思い出の一つになりました。アドバイスをくれた友人や家族には本当に感謝しています。【最終選考に残った川部奏良さん⑤と有坂心春さん（いずれも 3 年）の作品 ↑】



編集後記

毎回のことですが編集後記には季節感が欲しいなと思いつつも、読んでいただく一か月先の季節が捉えにくく悩みでもあります。因みに昨日も今日も晴れているものの強風です。能登半島地震も昨日から活発です。6 月の「歳時記」では「寒暖の差が激しく体調を崩しやすい時期」とあります。ICT 化についていけなくとも自然環境にはしがみついて行こうと思っています。 T.松本

©発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、鈴木賀津彦、嶋 宏之

